



市政 PICK-UP

交流の輪を広げる

青少年海外派遣事業として、夏休み期間の7月20日～8月4日まで14泊16日の日程で、姉妹都市である米国エベレット市を訪れていた高校生13人が、9日、福田良彦市長と武田正之市議会議長に帰国報告をしました。

高校生たちは、一般家庭にホームステイしながらエベレットコミュニティカレッジで語学研修や料理研修、地元の子どもたちと習字や折り紙、歌などを教え交流の輪を広げました。また、シアトルにあるボーイング社の

青少年海外派遣事業

工場を見学したり、消防署を訪問したりして、見識を深めました。

報告会では、一人ずつエベレット市で体験したことや活動内容などの感想を述べていました。福田市長は「皆さんが元気に帰国され、体験したことをいきいきと語る姿をうれしく思います。この経験を生かし、自分たちの夢を形にできるよう、さらに頑張ってください」と激励の言葉を掛けていました。

閩都市交流室 ☎ 5018



▲激励の言葉を掛ける福田市長(右)と武田市議会議長(左)

全国各地で岩国をアピール

8月8日、市役所で、市出身で東京都に在住の演歌歌手山口留美さんへの市観光大使委嘱状交付式が行われました。

観光大使は、さまざまな分野において全国で活躍している市出身者や市にゆかりのある人に「観光岩国」を宣伝してもらい、市の観光発展に寄与することを目的としています。これまでに彫刻家の澄川喜一さんや漫画家の弘兼憲史さんなど、61人に委嘱しており、山口さんで62人目。交付式で白木勲副市長は「岩



▲名刺を持つ白木副市長(左)と山口さん(右)

観光大使委嘱状交付式

国錦帯橋空港の開港で首都圏をはじめ全国から多くの観光客が訪れることが期待されます。観光大使として岩国を全国に発信してください」と委嘱状や名刺などを手渡しました。

1999年に「音頭水戸黄門」ああ人生に涙あり」でデビューされ、全国各地でコンサートを開いている山口さんは「岩国のことをもっと勉強して、多くの人に岩国自慢をしていきたい」と抱負を語りました。

関観光振興課 ☎295116



▲岩国の思い出を話す山口さん



▲パンフレットなどが入った袋を手渡す職員

空港で、お盆の帰省客に

8月13日・14日の両日、岩国錦帯橋空港ロビーで、市職員による「ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）PR活動」が行われました。

ふるさと納税制度は平成20年度から始まり、任意の自治体に寄附をすると寄附額の二千元を超える部分について、一定の限度額まで所得税と住民税が軽減される仕組みです。市では市外在住者で一万円以上の寄附に対して、謝礼として「がんねセツ

ふるさと応援寄附金PR

ト」など、ふるさと産品の中から希望する1品を贈っています。両日とも空港PRキャラクター「ソラッピー」も登場し、14時45分の羽田ー岩国到着便に合せ、お盆の帰省客などを対象にPR活動を行い、お土産を抱えた帰省客にパンフレットや観光グッズなどが入った袋を配布しました。また、関連するさまざまな体験交流やU・J・IターンなどのPRも、併せて行われました。

関市民協働推進課 ☎295015



▲帰省客などでにぎわう空港ロビー